

福井県医師会

だより

第725号 令和3年(2021)11月



冬を待つ山毛櫨林

福井市 石黒 信彦

表紙写真説明：冬を待つ山毛櫨林

福井市 石黒 信彦

白山連峰に雪がきた。別山での新雪が見たくて、夜間にヘッドライトを点けて千振り尾根を登った。見上げると満天の星空に、葉を落とした山毛櫨の木々が隙間なくびっしりと枝を広げていた。大気は冷たいが、清々しい気分になり、頂上を目指した。

醫 縫 録

「デクノボー」を目指して…

会計担当理事 岡本清也



2021年6月の代議員会にて県医師会理事にご選任いただきました。県医師会の役員としては数年間代議員を務めて参りましたが理事への就任は初回ですので身が引き締まる思いです。

今から8年前、福井市医師会の役員に就任したのが私の医師会活動の始まりでした。それまで総会などで会計担当の先生が決算報告の数字を流ちょうに読み上げて説明されるのをチンプンカンプンで聞いていました。感心しながら「自分はこの仕事をするのは一生ないだろうな…」と思っていたところ、何と自分が会計担当に任命されてしまいました。あまりの重圧に1週間眠れず体重が2kg減り、新しい仕事に慣れるのに半年かかりました。今回も池端会長からは会計担当を仰せつかりましたが、福井市医師会と県医師会の会計は内容が大きく相違しており、また一から勉強を始めています。

勤務医時代も含めて医師免許をもらってから長年医師会活動をしてこなかった私にとって福井市医師会役員就任中は毎日が新しい出来事の繰り返しで多くのことを学ばせていただき、私の人生観が大きく変わった6年間でもありました。それまで無駄なものと思っていた会議の重要性を身に染みて感じる事となり、当時福井市医師会会長に就任されていた三崎議長、安川副会長からは多くのことを学ばせていただきました。

それまでの私は会議にせよ臨床の議論にせよ、自分の意見は論理的に説明し、自分と違う意見は論破する、いわば議論に勝つことが正しい方法であると思っていました。法廷やミステリーのテレビや小説で主人公が犯人や検事を論理的に打ち負かすやり方がとてもかっこよく憧れていたものです。しかしそのような方法をとっても物事が良い方向に進むわけではなく、「全員が納得して一つの結論を導き出すことが理想的」なのだという事を知るようになります。そしてそのために必要なこ

とは議論に勝つことではなく、場の雰囲気を理解し、人々の感情を理解することが重要なのだと認識するに至りました。そしてこのことは患者さんや家族への対応にも通じるものがあるのではないかと思ったりもしています。

宮沢賢治の作品に「雨ニモマケズ」という有名な詩がありますが、その最後に私がとても好きなフレーズがあります。

日照りの時は涙を流し 寒さの夏はおろおろ歩き
みんなにでくのぼーと呼ばれ
褒められもせず 苦にもされず
そういうものに わたしは なりたい

賢治が理想としていたのはとても有能で思慮深いが決して目立たず、他人の評価を期待しない人間像です。「あの人はあまりしゃべらないけど終わってみるとあの人が言う通りの結論になってるな…」県医師会の理事に就任するにあたり、私もそんな「デクノボー」を目指したいと思っています。

…と、こんな文章を書いている時点でデクノボー失格ですけどね(笑)。

